



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和5年7月4日
文責：校長 江上 知男



地域の方にあいさつ！

あいさつができる人に！

「自分から自然とあいさつができるような子になってほしい」と願う保護者の方は多いと思います。それは、「あいさつは人生を歩く『杖』」であることを、私たち大人は実感しているからです。

地域では、「子どもたちが気持ち良くあいさつしてくれました」という声を聞く一方、「子どもたちがあいさつをいっちょんせん。学校は指導しているのか。」とお叱りを受けることもあります。私は謝罪しつつ「皆さんから先に子どもたちにあいさつをしたり声を掛けていただいたりしたりして、本当にありがとうございます」とお礼を言っています。「地域と学校での子どもたちの様子は違う」とも感じています。

さて、「あいさつができる人」は、どうやって育まれるのでしょうか。…これはなかなかの「難問」です。その人の「性格」、思春期などの「発達段階」、相手との「信頼」等々が関係すると思われまます。でも、小学生期に大切なのは、「家庭でも学校でも『周りの大人』が挨拶をする姿を見せておくこと」と言われています。また、「子どもは信頼する大人の言動を見本として成長するので、周りの大人が習慣的に挨拶をしていると、『どのタイミングで挨拶をすればいいか』を理解しやすくなる」とも言われています。

学校では、先生たちが「率先してあいさつをする姿」を見せるように心がけています。どうか、ご家庭でも保護者にモデルを示していただき、あいさつできた子どもをほめていただければと思います。

今週は、子どもたちの「生活安全委員会」があいさつ運動を行う予定です。

「ウィンウィン」の関係を！

最近、保護者も含め地域の方々が学校の教育活動に関わっていただく姿を頻繁に見るようになりました。PTAプール委員の「水泳見守り」、ボランティア委員や地域の方の「ミシン指導」、地域の方の「地域体験学習見守り」、平成音大生の「学習指導」等々…。今週は「田植え(林田さん)」も予定されています。

保護者や地域の方に関わっていただいて、子どもたちが喜んでるのはもちろんのことですが、地域の方々も「子どもたちと関わられて嬉しかった！」「子どもたちから元気をもらった！」「主体的に活動している姿に感心した！」等々の感想をいただいています。



ボランティアに感謝！

まさしくウィンウィン関係…つまり「双方に得のある良好な関係」と言えます。

私は、学校と地域の関係は「ウィンウィン」でないと考えています。「頼る・頼られる関係」は誰かが無理している状況であり、「長続きしない」と思うからです。PTA役員や西小コーディネーターの荒木さんに創っていただいたこの仕組みが、「ずっと続けばいいなあ」と願っています。

7月2日(日)から3日(月)にかけて発生した「大雨」について、地域での被害はなかったでしょうか。学校も、急遽「休校」にせざるを得なくなり、保護者の皆さまにはご迷惑をおかけしました。今回の休校の決め手は「線状降水帯の発生」でした。「判断がブレてしまったこと」が反省点ですが、「命を守ることを最優先にした結果」とご理解いただければありがたいです。

上益城管内には、残念ながら大きな被害を受けた地域が出てしまいました。被災された方に心からのお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興をお祈りいたします。